

ライフル射撃は少年女子チームピストル60発で、佐々木真由（竜ヶ崎一高）が205.4点で3位に入った。成年女子の10発エアピストル60発では、中野愛望（県警）が4位に入賞した。ハンドボールは成年女子が準々決勝で鹿児島に32-25で勝利し、準決勝へ進出した。成年男子は2回戦で愛知に30-26で勝ち、準々決勝へ駒を進めた。少年男子は準々決勝で福井に23-17で快勝し、準決勝進出。少年女子の2回戦は愛知に21-20で競り勝ち、準々決勝へ進んだ。アーチェリー少年

男子団体は1732点で予選6位となり、決勝トーナメントに進出した。ボクシング成年男子ライトウェルター級は、大内舜也（城里町役場）が2回戦で判定負けとなった。ボウリングの成年男女個人予選は、計8人が出場したものの、全員が予選で敗退した。男子は増井陸（千葉工大）の13位が最高だった。弓道は成年男女遠的と少年男女近的の予選が行われ、本県選抜は4種目とも決勝トーナメントに進出することができなかった。

佐々木 激戦粘った

天仰ぎ緊張感を抑制



ライフル射撃

少年女子チームピストル60発3位



〈ライフル射撃少年女子チームピストル60発〉3位入賞した佐々木真由（竜ヶ崎一高） 〓 桜川市岩瀬体育館ラスカ

ライフル射撃少年女子チームピストル60発で、佐々木真由（竜ヶ崎一高2年）が3位に食い込んだ。

予選は立ち上がりで乱れて得点は伸び悩んだ。それでも、全国高校選抜大会2位の実力者。しつかり5位で8人だけ出るファイナルに残った。

ファイナルは予選の結果を持ち越さず、10発撃った後に2発ごと最下位が脱落していく激しい戦い。その中で、持ち前の安定感を取り戻し、序盤から上位につけた。

終盤の局面、「行けるかもしれない」と思った時、外して残り2人には残れなかった。「もったいないことをした。」「がっつり頑張らなくても行ける」という慢心があったかもしれない」と悔しがった。

ヒロイン

試合の途中、何度も標的を狙うのをやめ、天を仰いだ。「目をつぶって緊張を和らげた。時には応援席の仲間たちを顧み、笑顔やVサインを示して余裕を表した。

実は「不安だった」という。「気持ちの上げ下げが大きかった。外した時に応援席から『あー』とため息が聞こえるのを聞きながら、皆が『よし』と言ってくれるのも聞かなくて、えとどんどんモチベーションが上がった」と振り返った。

小野雅典コーチ（34）「取手一高教員は「明らかに本調子ではなかったが、粘り強く戦いファイナルに残った」とたたえた。その上で「緊張をつましく操らなければいけない競技だが、佐々木は本当に淡々と撃つ。並の選手にはなかなかできない」と評価した。

あと二つの階段は次への宿題。「3位はうれしいけれど、悔いはある。来年、再び団体に出て雪辱を果たしたい」と誓った。（富岡良一）